

健康・機能性食品素材市場に関する調査を実施（2016年）

－機能性表示食品制度による市場活性化に期待－

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内の健康・機能性食品素材市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2016年7月～9月
2. 調査対象:食品配合原料供給メーカー(バルク供給企業)、健康食品受託製造企業、健康食品メーカー、関連団体・省庁等
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

<健康・機能性食品素材市場とは>

本調査における健康・機能性食品素材は、当該食品に主成分として使用されている32素材を対象とする(32素材の詳細は図1の注記参照)。

【調査結果サマリー】

◆ 2015年度の健康・機能性食品素材市場の市場規模は1,009億1,500万円

2015年度の健康・機能性食品素材市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、前年度比102.2%の1,009億1,500万円となり、DHA・EPA、ローヤルゼリー、コラーゲン、BCAA、ブルーベリー(ビルベリー)などの市場規模上位の素材がおおむね堅調に推移したことで、32素材合計の市場規模も拡大した。高齢化社会の進行によるシニア層の拡大といった市場環境に大きな変化はないものの、訪日外国人客によるインバウンド需要の高まりと、2015年度に開始された機能性表示食品制度が、各機能性素材の市場に好影響を与えていると考える。

◆ 機能性表示食品制度の浸透により、同制度への対応を重視するメーカーが増加

2015年4月に開始された機能性表示食品制度は届出件数が400件を越え、徐々に市場が形成されつつある。ヒアルロン酸など、同制度を利用することにより停滞気味であった市場が活性化された事例もあり、今後は健康食品メーカーにおいても、機能性食品素材の採用に当たり同制度への対応可否が重要視されていくと考える。

◆ ロコモティブシンドローム対策、スポーツニュートリション用途でアミノ酸が好調

ロコモティブシンドローム対策素材、スポーツニュートリション素材としては、引き続きアミノ酸を中心に堅調に推移している。今後も、シニア層の増加や、ロコモティブシンドローム対策・サルコペニア予防への意識が高まる事で、需要は拡大し、市場は拡大基調で推移していく見通しである。他にも近年、消費者の間で‘腸内フローラ’の重要性が広く認識されるようになっており、‘整腸素材’が注目されている。

◆ 資料体裁

資料名:「2016年版 健康・機能性食品素材市場の実態と展望」
 発刊日:2016年10月11日
 体裁:A4判 544頁
 定価:130,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況

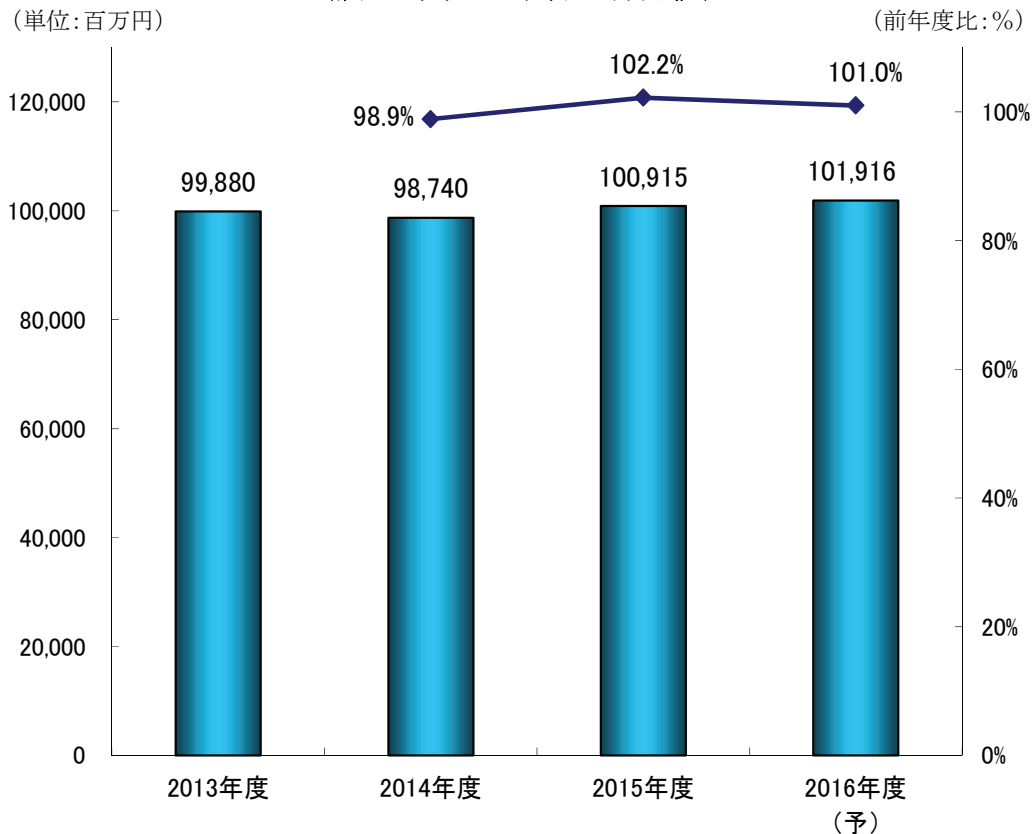
2015年度の健康・機能性食品素材市場規模(調査対象32素材の合計)は、前年度比102.2%の1,009億1,500万円(メーカー出荷金額ベース)で着地した。

素材別に見ると、DHA・EPA、ローヤルゼリー、コラーゲン、BCAA、ブルーベリー(ビルベリー)などの市場規模上位の素材がおおむね堅調に推移したことで、32素材合計の市場規模も拡大した。

2015年度は、高齢化社会の進行によるシニア層の拡大といった市場環境に大きな変化はないものの、訪日外国人客によるインバウンド需要と、2015年度に開始された機能性表示食品制度が、各機能性素材の市場に好影響を与えている。

しかし、2016年度に入って以降は、インバウンド需要の勢いが下火となっており、今後の食品配合原料供給メーカー(バルク供給企業)の戦略にインバウンド需要が大きく影響することは考えにくい。一方で、ロコモティブシンドローム対策や、スポーツニュートリションなど、健康食品メーカー各社が継続的に取り組んでいるカテゴリーに関しては、それに関連する機能性素材の市場はおおむね堅調に推移しており、2016年度の同市場(同合計)を前年度比101.0%の1,019億1,600万円(同ベース)と予測する。

図1. 健康・機能性食品素材市場規模推移と予測
(調査対象32素材の合計値)



矢野経済研究所推計

注1: 食品配合原料供給メーカー(バルク供給企業)出荷金額ベース

注2: 2016年度は予測値

注3: 調査対象32素材の合計値

対象素材: 青汁、アスタキサンチン、イチョウ葉、ウコン、L-アルギニン、L-カルニチン、L-シトルリン、オルニチン、核酸、キチン・キトサン、グルコサミン、コエンザイムQ10、コラーゲン、コンドロイチン硫酸、セラミド、大豆イソフラボン、DHA・EPA、ノコギリヤシ、ヒアルロン酸、BCAA、プラセンタ、ブルーベリー(ビルベリー)、プロポリス、ヘム鉄、マカ、松樹皮、ラクトフェリン、緑茶抽出物(カテキン・テアニン)、ルテイン、霊芝、レスベラトロール、ローヤルゼリー

2. 注目すべき動向

2-1. 機能性表示食品制度が追い風となり、市場の継続的な成長を期待

2015年4月、‘消費者の誤認を招かない、自主的かつ合理的な商品選択に資する表示制度’として開始された機能性表示食品制度は、届出件数が400件を越え、徐々に市場が形成されつつある。ヒアルロン酸など、同制度を利用することにより停滞気味であった市場が活性化された事例もあり、今後は健康食品メーカーにおいても、機能性食品素材の採用に当たり同制度への対応可否が重要視されていくと考える。

また、機能性表示食品制度は全ての食品を対象としており、一般加工食品メーカーや飲料メーカーなどに対する、素材採用提案への追い風ともなっている。国内では人口減が進行しており、一部の食品配合原料供給メーカー（バルク供給企業）においては海外事業展開が進んでいるが、機能性表示食品制度を契機として、健康食品に限らず幅広い一般加工食品・飲料に対する供給が拡大し、国内の健康・機能性食品素材市場の継続的な成長につながる事が期待される。

2-2. ロコモティブシンドローム対策素材、スポーツニュートリション素材は堅調を維持

ロコモティブシンドローム対策（関節、筋肉、骨の健康維持対策）素材、スポーツニュートリション素材としては、引き続きアミノ酸を中心に堅調に推移している。

特に、筋肉合成に関わる必須アミノ酸であるBCAA（L-バリン、L-ロイシン、L-イソロイシン）は、スポーツニュートリション用途と共に、サルコペニア（加齢に伴う筋力低下）予防を目的として需要が拡大しており、食品配合原料供給メーカー（バルク供給企業）各社で売上が伸長している。

今後も、シニア層の増加や、ロコモティブシンドローム・サルコペニア対策への意識が高まる事で、引き続き需要は拡大し、市場は拡大基調で推移していく見通しである。

2-3. ‘整腸素材’への消費者の関心・需要が高まり、今後の注力素材に

2015年頃から、消費者の間で‘腸内フローラ（腸内細菌叢）’の重要性が広く認識されるようになってきている。‘整腸素材’としては、体内で働く乳酸菌・ビフィズス菌などの善玉菌や、善玉菌の栄養となり増殖を促す機能のあるオリゴ糖・食物繊維[※]などがある。そうした中、機能性ヨーグルト商品の売上好調に象徴されるように、整腸素材への需要は高まっており、食品配合原料供給メーカー（バルク供給企業）各社でも注力分野・素材として位置づけている。

乳酸菌をはじめとする各種整腸素材は、健康食品に限らず一般加工食品や飲料への用途拡大が顕著である点が特徴である。代表的なものとしては、乳業メーカー各社が展開している自社独自の乳酸菌やビフィズス菌が入っている機能性ヨーグルトが挙げられるが、その他にも乳製品以外の加工食品で、乳酸菌を配合し、商品名・パッケージで乳酸菌入りを強調する事で差別化を図る商品が、複数発売されている。また、2015年に開始した機能性表示食品制度でも、表示しようとする機能性に‘おなかの調子を整える’などの表現を含み、整腸効果を訴えるものが多く届出されている。

機能性表示食品に限らず、機能性を強調した商品が好調に売上が伸ばしている事から、一般加工食品メーカー・飲料メーカーにおいても、機能性食品素材を配合した一般加工食品の商品開発は今後も進んでいくものと見られ、消費者の関心の高い整腸素材を取り扱う食品配合原料供給メーカー（バルク供給企業）にとっては、提案業態が拡大し、大きな商機となっている。

※乳酸菌・ビフィズス菌、オリゴ糖・食物繊維については調査対象32素材には含まれないため、健康・機能性食品素材市場規模の中には合算されていない。